

先島諸島探究修学旅行へ

今週の月曜日から高校2年生100名(引率教員7名)が沖縄県の大先島諸島に修学旅行に出かけています。昨年度から始まった先島諸島での探究修学旅行、今年も、宮古島、石垣・黒島、西表島の3つの方面に、それぞれ約30名ずつが分散して訪問しています。

訪問地である「先島」という名は、本州からみて沖縄諸島のさらに先にあるということに由来しており、大きく宮古島を中心とする宮古諸島と、石垣島を中心とする八重山諸島に分けられます。東京から県庁所在地：那覇市のある沖縄島(沖縄本島)までの距離が約1550km、そこから宮古島へは約300km、石垣島へはさらに130km西という位置関係になります。

沖縄・沖縄諸島と言えば、「南国の暖かな島」「海洋レジャーとリゾート」または「青い海と白いサンゴ礁」など亜熱帯の明るいイメージの反面、太平洋戦争末期の出来事と米軍基地による「戦争と基地の島」という負のイメージがありますが、先島諸島についてはどうでしょうか？また、なぜ先島諸島を選んだのでしょうか？

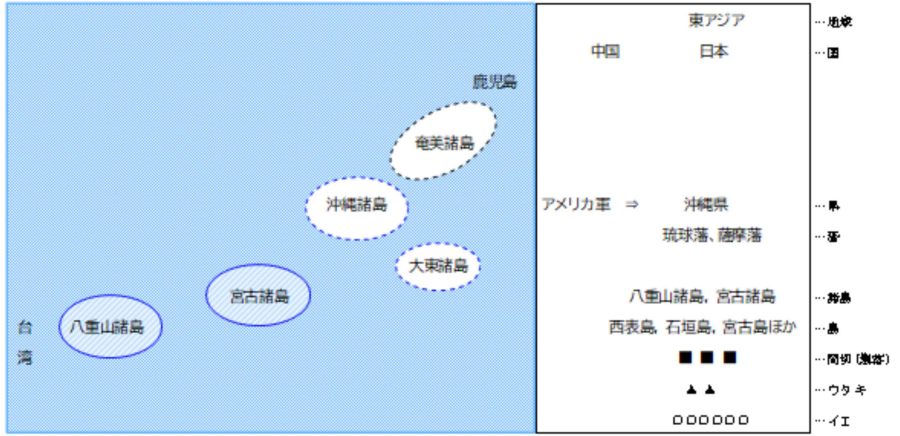
その地理的な位置関係や歴史的な経緯にも関わらず、遠く離れた土地に生活する私たちは、どうしても沖縄地域を一括りのイメージとして捉えがちです。それぞれの都道府県の中にも地域性があるように、沖縄県においても先島諸島は沖縄島周辺の地域とは異なり、また歴史的には琉球王国時代においては薩摩藩との二重の支配下にあったです。さらに自然環境だけでなく、歴史的経緯と文化や風土の重層性と、現在、先島諸島がおかれている状況を正しく理解する必要があります。

各自が設定したテーマに従って事前の文献調査を行い、現地での見学や聞き取り調査などフィールドワークを行い帰京後に自宅にて2日間掛けてレポートを作成し、その後、昨年同様に発表会や報告集にまとめることになっています。わずかな限られた期間の訪問では、その本質に迫ることは難しいとは思いますが、訪問先の皆様と直に接し、高校生の若い感性で学び感じ取ってほしいと願っています。18歳成人を迎える生徒たちにとって、より身近な存在として将来への展望について考える契機なれば幸いです。

参考文献

笹森 儀助、東 喜望:校注(1982)『南嶋探検 1 琉球漫遊記』東洋文庫(平凡社) 326頁。

今林 直樹(2005) 先島諸島の地理・民俗・歴史 一宮古諸島と八重山諸島一「研究論文集」120、pp.59-82.



先島諸島の地理的位置と重層性

(石飛原図)